

第5学年 国語科学習指導案

児童 5年2組 男子21名 女子17名

指導者 小田 多紀子

1 単元名 優れた表現に着目して，作品の一番の魅力を推せんしよう

2 学習材名

中心学習材「大造じいさんとガン」（光村図書5年）

補助学習材「イノシシのねぐら」（理論社）他 動物を描いたもの 椋鳩十作品

3 単元を貫く言語活動とその特徴

優れた表現に着目しながら物語を読み，その素晴らしさを作品の一番の魅力として本の帯で推薦すること

本単元を貫く言語活動として「優れた表現に着目しながら物語を読み，その素晴らしさを作品の一番の魅力として本の帯で推薦すること」を位置付けた。物語を情景描写などの優れた表現に着目しながら読む。「優れた表現とその解説」「作品から伝わってきたこと」を本の帯で推薦する。その推薦の根拠となるのが情景描写などの優れた表現である。情景描写などの表現の素晴らしさを前後の文脈の流れと結びつけて本の帯に書くという言語活動は「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること」（C読むことエ）の実現に結び付くと考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は，5年「のどがかわいた」では，叙述から人物像をとらえ，登場人物の関係の深まりや心情の変化を読み取り人物相関図に書くことを学習してきている。そして，「百年後のふるさとを守る」で伝記を読み，人物の生き方や自分に生かせるところをリーフレットにまとめている。これらの学習を通して，叙述をもとに人物について想像を広げ，自分と比べて考えるということができるようになってきている。しかし，情景描写とその前後の文脈とのつながりを読むということについては，指導していく必要がある。

(2) 指導について

中心学習材「大造じいさんとガン」は，豊かな情景描写が特徴の学習材である。それらの表現が大造じいさんの心情の変化につながっており，読み手をますますその作品の世界に引き込み感動を生み出す物語である。よって，本学習材は「情景」というものに初めて出会い，優れた表現に気づきながら読みを深めていくのに適していると考えられる。

補助学習材は「イノシシのねぐら」はじめ椋鳩十の作品の中から，「大造じいさんとガン」と同じ動物を題材にした物語を選書した。動物と自然との関わりは切り離せず，椋鳩十の動物が主人公の作品には情景描写が豊富にある。また，動物だけに会話文よりも行動が詳しく書かれており，児童が情景描写に焦点をあて主人公の心情について想像を広げながら読み進めるのに適している題

材である。情景描写と心情とのつながりを自分で発見した際に、物語の感動を生み、作品の魅力として推薦することができると思う。

単元を通して次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「表現の効果を考えながら、物語を読むこと」である。初めて触れる情景描写に込められた主人公の心情を考える活動はつまずきが予想される。そこで、情景描写が多い本作品で、作者はなぜそのように表現したのか、その効果を考える活動を大切にしたい。情景描写が無くとも物語は進むのであるが、情景描写があるときの表現の効果を学び、自己の表現につなげられるようにしたい。

二つ目は、「魅力的な場面を考えながら、物語を読むこと」である。作品全体を読みながら、一番魅力的な場面を見つけるようにさせる。その際、魅力を感じた言葉や文章に線を引きながら読むようにさせる。児童一人一人が叙述に向き合い、感覚だけで情景や心情をとらえるのではなく、一つ一つの言葉にこだわって読み進めていく大切さを感じさせたい。

三つ目は、『本の帯』に書く項目を意識して物語を読むことである。書く項目の「キャッチコピー」、「作品から伝わってきたこと」は既習事項であるので、あまり時間をかけずに進め、「優れた表現とその表現から想像できること」に重点を置いて指導する。特に「その表現から想像できること」はどう書かせたいのか教師がはっきりと児童に示していきたい。

本時では、二つの文章を比較することで優れた表現に気づき、その効果について考えさせる。見つけた表現が表すことと登場人物の心情と結びつけながらそのよさを確かめ、「情景描写などの優れた表現に着目して物語を読んでいく」ということを強く児童に意識づける時間としたい。

5 単元の指導目標

○物語の中で最も魅力的な場面や優れた表現を味わいながら読もうとしている。

(関心・意欲・態度)

○本を推薦するために、情景描写と登場人物の心情とを結びつけて、優れた表現に着目してその美しさを味わいながら読むことができる。

(読むことエ)

○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ (カ))

6 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての知識・理解・技能
おおむね達成できる状況	自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら物語を読み、本の魅力を伝えようとしている。	物語を推薦するために情景描写などの優れた表現に着目して、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。	言葉の使い方に着目し、優れた情景描写の様子を想像している。

7 単元の学習計画及び評価計画（読むこと 9時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
見 通 す	1	1 単元の目標，言語活動を つかみ学習計画を立てる。	○指導者が椋鳩十作品の一つから作 成した本の帯を提示し，単元の目 標をもたせる。 ○本の帯に書く内容（四つ）を知る。 ・キャッチコピー ・テーマとおすすめの言葉 ・優れた表現 ・その表現の素晴らしさ ○ブックリストから読んでみたい本 を何点か選ばせる。 ○本の紹介をすることを確認する。 ○作品の魅力だと感じたところに付 箋を貼ることを伝える。（3枚）	関一本を読んで，本 の帯をつくること に関心をもち進ん で並行読書の本を 読もうとしている。 （ワークシート）
		優れた表現に着目して，作品の一番の魅力を推せんしよう		
	2 本 時	2 読みの視点を知る。 ○二つの文章を読み比べ表 現の効果に気付くこと	○同じことを伝えるにも表現の仕方 によって読み手に与える印象が異 なることに気づかせる。 ○優れた表現の効果について考えさ せる。	読—情景描写などの 表現の効果に気づ いている。 （ワークシート）
深 め る	3	3 全文を読み，あらすじを つかむ。	○登場人物の確認をする。 ○大造じいさんの行動を中心に読ま せる。	読—線を引いたとこ ろから気持ちを想 像している。 （ワークシート） 読—優れた点につい て言葉の効果を考え て説明している。 （ワークシート）
	4	4 登場人物の心情を読む。 ○心情が表現されている言 葉を見つけ，どんな気持 ちか想像すること	○大造じいさんの気持ちがわかる言 葉にマーカー（ピンク）で印を付け させる。	
	5	5 情景描写を集める。 ○文章全体を読んで，情景 描写を見つけ，そのよさ についても書くこと	○情景描写の視点を与える。 ○情景描写にマーカー（緑）で印を付 ける。 ○「いつもなら～と表現するけど…」 という視点で見つけさせる。 ○素晴らしいと思った理由を書かせ る。 ○情景描写がある場合とない場合 では，大造じいさんの気持ちを想像 する際，どのような違いがあるか考え させる。	
	6	6 情景描写と心情を結びつ ける。 ○前時にマーカーを引いた 心情と情景描写のつなが りを見つけること	○前後の文脈の表現に気をつけて読 ませる。 ○一番の魅力として自分が最も素晴 らしいと思った表現を選び，理由と ともに書かせる。	
	7	7 本の帯を完成させる。 ○本の一番の魅力について 自分の考えをまとめるこ と	○おすすめの理由をテーマと関連さ せて考える。 ・キャッチコピー（テーマ） ・おすすめの理由	
広 げ る	8	8 自分の選んだ作品の本の 帯を作る。 ○一番の魅力について自分の 考えをまとめること	○付箋を貼っていたところを一つに 絞らせる。 ○一番の魅力だと思ったところを引 用させ，その理由も書かせる。	読—優れた表現に着 目し，作品の魅力 をとらえている。 （本の帯）

9	9 本の紹介をする。 ○本の帯で作品の魅力を推薦すること	○「お気に入りの表現」として選んだ理由を読書経験や使ってみたい言葉、印象の違いの視点で見つけさせる。 ○たくさんの本の帯を読み、感じ方の違いや様々な表現を知る機会とする。	【読】一友達作品から考えを広げたり表現を学んだりしている。 (ワークシート) 【言】優れた表現に関心を持ち、その効果を考えている。 (ワークシート)
---	---------------------------------	--	---

8 本時の学習 (2/9)

(1) 目標 二つの文章を読み比べて、表現のよさに気づき読みの視点を理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
導入	1 前時の学習を想起する。 2 課題を把握する。	○単元の目標や学習計画を立てたことを確かめる。	・単元でつきたい力を確認し、本時の課題へとつなげる。
2		椋鳩十作品の読みの視点をさぐる	
展開	3 二つの文章を読み比べる。 4 読んだ印象について気づいたことを書く。 (個人) 5 気づいたことを交流する。 (1) グループ (2) 全体 6 表現の効果について考える。	○情景描写が盛り込まれていない文章と原文を読むこと ○二つの文章を比べてみて感じたことを書き自分の考えをもつこと <担任作成の文章> ・あっさりしている。 ・棒読みな感じがする。 ・ただ説明している感じがする。 <椋鳩十の書き出し> ・表現がいい。 ・よく伝わる。 ・くわしく書いている。 ○ワークシートに書いたことを出し合い、自分の考えを広げること ・自分が気付かなかった視点をもつ友達を知る。 ・自分と同じことを感じている友達を知る。 ○グループで交流したことを出し合い、表現のよさについて確かめること ◎「このような表現が物語にどんな効果をもたらすのでしょうか。」 ・一番いいと思った表現を選び <input type="checkbox"/> に合う言葉を書かせる。	・違いに気をつけて読み比べさせる。 ・違いによってどんな感じを文章から受けたかを書かせる。 ・二つの文章について気づいたことを上下に並べて板書していく。 ・二つの文章の表現が特に違うところに着目させ、なぜいいと思ったかを考えさせる。 ・グループの友達の考えを参考にしてもよいことを伝える。
38			<評価規準> 表現の効果について気づき、読みの視点を理解している。 (ワークシート)

	7 「情景」という言葉について知る。	・人物の心情と響き合うようにえがかれた風景や場面の様子ということをおさえる。	・新出用語なので言葉と意味を書かせる。(ワークシート)
終末	8 本時の学習を振り返る。	○読みの視点についてわかったことや友達から学んだことを振り返ること	・これからの中心学習材や並行読書の本をどんな視点で読んでいくかも書くようにさせる。
5	9 次時の学習を確認する。		

(3) 板書計画

